

ブルガリア月報 [2011年9月]

平成23年10月
在ブルガリア日本国大使館

概観

【政治・社会】

- ・与党大統領候補が発表され、大統領選挙及び地方自治体首長・議会の同日選挙（10月23日）に向けた選挙活動が本格的に開始。
- ・プロブディフ近郊カトゥニツァ村におけるロマ人と村民との衝突をきっかけに、全国主要都市でも反ロマ抗議行動が頻発。

【経 済】

- ・サウス・ストリーム天然ガスパイプライン工事契約が出資企業の間で締結。
- ・ブルガリアがアゼルバイジャンからの天然ガス供給を受けることで合意。
- ・第2四半期GDPは、188億レバ（前年同期比2%増）、対第1四半期比0.3%増。

【我が国との関係】

- ・草の根・人間の安全保障無償資金協力（1件）

この月報はブルガリア各種メディアの報道ぶり等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

政治・社会

1. 内政

◆大統領選挙・地方選挙

▶4日、与党（GERB）がプレブネリエフ地域開発・公共事業大臣を大統領候補、ポポヴァ法務大臣を副大統領候補とすると発表。▶7日、ボリソフ首相は、大統領候補となったプレブネリエフ氏の後任としてパヴロヴァ地域開発・公共事業次官を指名。▶23日、大統領選挙及び地方自治体首長・議会議員の同日選挙（10月23日）に向けた公式な選挙活動が開始。大統領選挙の候補者は18名（12名は政党推薦、6名は無所属）。世論調査では与党プレブネリエフ候補、野党社会党（BSP）カルフィン候補、無所属クネヴァ候補が主要候補とされ、プレブネリエフ氏とカルフィン氏との決選投票になると予想されている。同日に行われる地方自治体首長・議会議員選挙につい

ては、84の政党・連合体が中央選挙管理委員会に候補者を提出。

◆反ロマ族抗議行動

▶23日、プロブディフ市近郊カトゥニツァ村におけるロマ人（いわゆるジプシー）と村民との衝突が勃発。同村で19歳青年がロマ族のリーダーラシュコフ氏の関係者が運転する車に轢かれて死亡した事件を発端に、翌24日、村民によるラシュコフ氏住居への襲撃に発展。翌25日には、近郊のロマ族居住区等で行われた抗議行動で村民とロマ族が衝突、プロブディフ近郊の暴動において127名が逮捕。▶26日、事態の沈静化を図るためパルヴァノフ大統領、ボリソフ首相がプロブディフを訪問。にもかかわらず同夜にはプロブディフの他、ソフィア、ヴァルナ、プレヴェン等の各都市で抗議デモ等が行われた。▶27日、アセノフグラド地方検察がラシュコフ氏を殺人脅迫の

疑いで逮捕したと発表。▶28日、パルヴァノフ大統領は、本件に関し国家安全保障協議会（NSCC）を10月1日に開催すると発表。

◆外務公務員法改正法案

▶1日、国民議会、大統領の拒否権発動後差し戻された外務公務員法改正法案を再可決。同改正法の主眼は旧諜報部に協力したことが明らかとなった35人の大使等外交官は幹部・管理職に就けないこととするもの。

2. 外政

◆シュミット・ハンガリー大統領：ブルガリア訪問（9月7～9日）

▶シュミット・ハンガリー大統領がブルガリア訪問。パルヴァノフ大統領、ツァチェヴァ国民議会議長等と会談。

▶両大統領の会談では、欧州及びその周辺地域のエネルギー安全保障問題を協議、積極的なエネルギー外交政策の重要性を確認した。また、パルヴァノフ大統領は、ハンガリーにおけるブルガリア系マイノリティーが、13の公式マイノリティーの一つとして、ハンガリー政府から財政補助等の支援を享受していることに謝意を表明した。

▶シュミット大統領は記者団に対し、ブルガリアはシェンゲン加入に必要な全要件を満たしており、ブルガリア及びルーマニアのシェンゲン加入を支持する旨述べた。また、ブルガリアのシェンゲン加入と協力・検証メカニズム（CVN）下における司法改革・汚職対策等に関する進捗状況は異なる旨述べた。

◆ムラデノフ外相：トルコ訪問（9月7～8日）

▶ムラデノフ外相がトルコ（アンカラ）訪問。ダーヴトオール・トルコ外相との会談では、11月頃を目途に両国政府の合同閣議を開催することで合意、合同閣議では交通、教育、エネルギー、国境協力及び効率的な水資源の活用等の具体的議題を協議することで一致した。また、両外相は西バルカン、中東、黒海情勢及び20世紀初頭のバル

カン戦争時にトルコから強制退去させられたブルガリア人の補償問題等についても協議。

▶ムラデノフ外相はNATOミサイル防衛（MD）システムに関する記者の質問に対し、MDシステムのレーダー施設のトルコ配備は軍事技術的な決定であり、ブルガリアとトルコはNATO友好国である旨強調した。

◆ボリスフ首相・ムラデノフ外相：EU内務司法理事会出席（9月22日）

▶ボリスフ首相及びツヴェタノフ副首相兼内相がEU内務司法理事会出席のためブリュッセル訪問。

▶22日、EU司法内務理事会では、ブルガリア及びルーマニアのシェンゲン加入が議論されたが、蘭及びフィンランドの反対から両国のシェンゲン加入の採択には至らなかった。

▶ツヴェタノフ内相は記者団に対し、仏及び独等は、ポーランドEU議長国が提出した妥協案（本年10月31日以降、シェンゲン領域の空域及び海上国境を開放、翌年に地上国境を開放する提案）を支持しており、ブルガリア及びルーマニアのシェンゲン加入は、引き続き欧州理事会及び欧州首脳会合等の公の場で協議される旨述べた。

◆キム・ファンシク韓国国務総理：ブルガリア訪問（9月26～28日）

▶26～28日、韓国のキム・ファンシク国務総理が、多くの韓国企業及び実業家を帯同してブルガリアを訪問。パルヴァノフ大統領及びボリスフ首相と会談。両国のビジネスフォーラムを開催。▶27日の両国首相会談では、両国政府間の戦略的パートナーシップ合意及び両国の運転免許証の相互承認・取り交わしに関する政府間取極に署名。その結果、韓国はブルガリアにとってアジア初の運転免許証相互承認国となった。

▶キム総理は記者団に対し、今次訪問の目的は、近年の二国間関係の進捗状況及び向こう20年間の更なる発展を展望することである旨述べると共に、2010年は、両国の外交関係樹立20周年であった旨強調した。

経 済

1. マクロ経済

◆第2四半期GDP

▶6日、統計局は第2四半期GDPについて、188億レバ（前年同期比2%増）、対第1四半期比0.3%増である旨発表した。GDPの内訳について、製造業分野のシェアが前年同期比2.3%増加して33.4%、サービス業分野は3.4%減少して60.8%、農業分野は5.8%となっている。

◆対EU貿易（上半期）

▶8日、統計局は上半期の対EU貿易について、3,180万レバ（FOB/FOB価格、暫定値）の黒字であり、FOB輸出価格からCIF輸入価格を減じた場合は約5億レバの赤字となった旨発表した。輸出（FOB価格）は約116億レバであり、対前年同期比43.6%増加し、輸入（CIF価格）は約121億レバであり、対前年同期比20.5%増加した。ブルガリアの主な輸出国はドイツ、ルーマニア、イタリア、ギリシャ、ベルギーであり、全体の67.6%を占める。

◆失業率（8月）

▶13日、雇用庁は8月の失業率について、9.45%（対前月比0.02%減）である旨発表した。内訳は29歳以下が19.4%、50歳以上が36.2%を占めている。1年以上の長期失業者は116,488人で全体の37.1%に該当する。

◆外国直接投資（FDI）

▶15日、ブルガリア中央銀行は、本年1月から7月までのブルガリアへのFDIに関して1億8,300万ユーロである旨発表した。前年同時期は7億7600万ユーロ、一昨年同時期は18億ユーロであった。主な投資元国はオランダ、キプロス、ロシアである。

◆IMF、GDP予測

▶20日、IMFはブルガリアのGDP成長率予測について、2011年は対前年比2.5%、2012年は対前年比3%となる見通しを発表した。

2. 産業

◆サウス・ストリーム建設工事契約

▶16日、ロシアが推進するサウス・ストリーム天然ガスパイプラインプロジェクトに関し、出資企業による建設工事契約が締結された。同プロジェクトには、ガスプロム（露）が50%、ENI（伊）が20%、Wintershall（独）とEDF（仏）が合計30%を出資する。同パイプラインにより、ロシアの天然ガスが黒海、ブルガリアを経由し、イタリア、オーストリアまで供給される予定。

◆アゼルバイジャンが天然ガス供給を確約

▶22日、経済省は、数年内に完工することが見込まれているブルガリア・ギリシャ間、または、ブルガリア・トルコ間いずれかの天然ガスパイプライン（インターコネクター）を通じ、年間10億立方メートルのアゼルバイジャン産の天然ガスがブルガリアに供給されることになった旨発表した。アゼルバイジャンを訪問したトライコフ経済・エネルギー・観光大臣がアリエフ・アゼルバイジャン大統領との間で合意したものの。

◆ソフィア近郊に新規浄水施設運用開始

▶27日、ソフィア南近郊のパサレル浄水場とマラツルクヴァ浄水場が運用開始した。新規浄水施設は、サモコフ市を中心に25万の市民に水道を供給する。近年、ブルガリアでは環境関連（上水道、下水道、廃棄物処理等）のプロジェクトが各地域で計画されており、整備計画の節目である2020年に向けて順次実施されていく見通し。

◆Premier Power社（米）が4か所の太陽光発電所をブルガリアに建設

▶28日、米国Premier Power社がブルガリア南東部に4か所の太陽光発電所を建設する旨正式に発表した。各発電所の規模は3MWから5MWで、4か所合計の発電能力は16.2MW。

◆ **ルクオイル裁判は大統領選挙後**

▶29日、ソフィア行政裁判所は、政府が法令違反を理由に国内石油卸売最大手ルクオイル社の免許を取り消した件に関し、処分の是非を審理する行政裁判を11月9日に開始する旨発表した。

3. その他

◆ **新地域開発相にパヴロヴァ氏を選出**

▶9日、国民議会は、新たな地域開発・公共事業相にリリヤナ・パヴロヴァ地域開発・公共事業次官を賛成116, 反対37(棄権2)で選出した。前任のプレブネリエフ氏は、与党GERBの大統領候補に指名されたことを受け辞任した。

=====
我が国との関係

◆ **草の根・人間の安全保障無償資金協力**

▶21日、ハスコヴォ州ディミトロフグラッド市のテニヨ・ストイロフ幼稚園で、日本政府が

供与した35,319ユーロを原資に実施された同幼稚園施設改修プロジェクトの供与式が実施された。

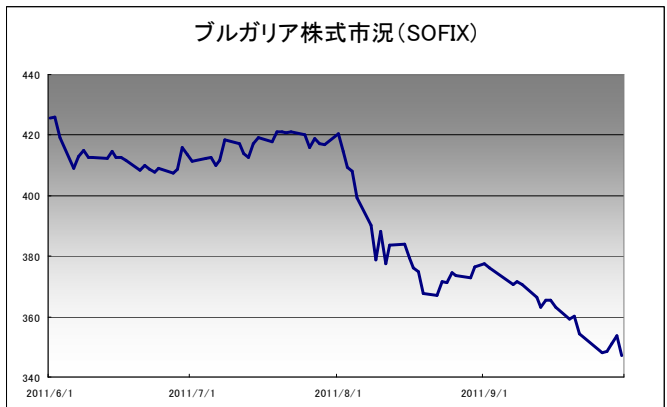
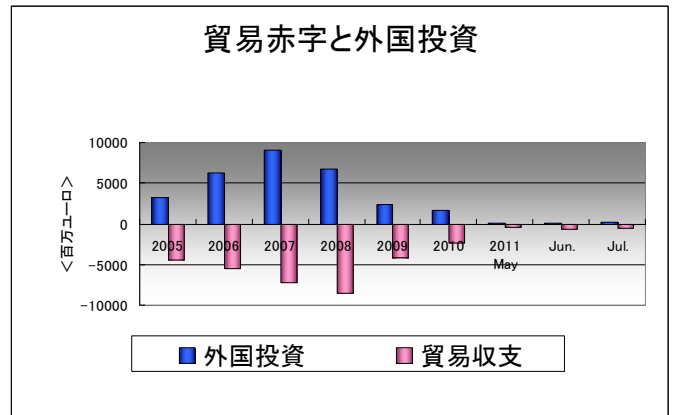
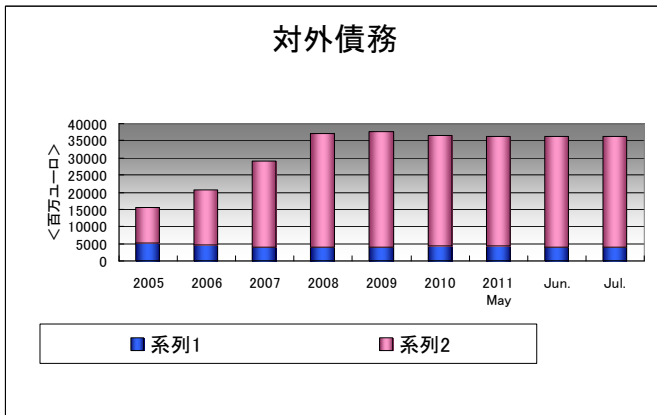
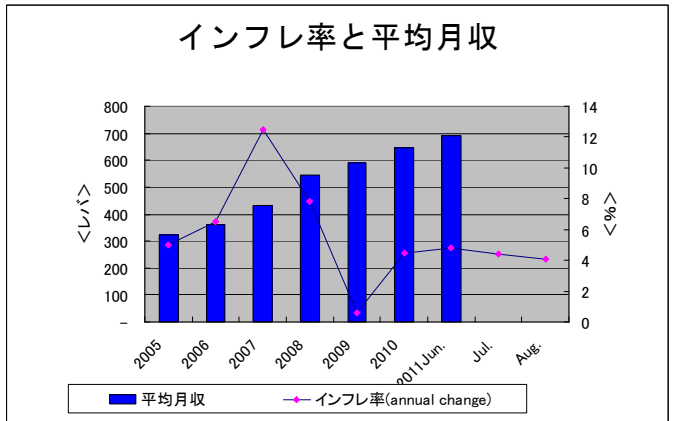
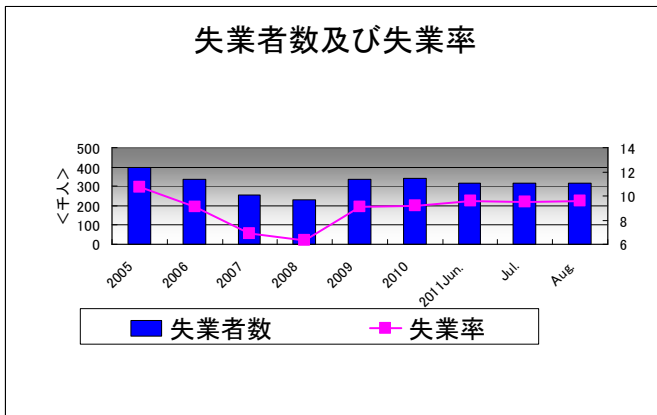
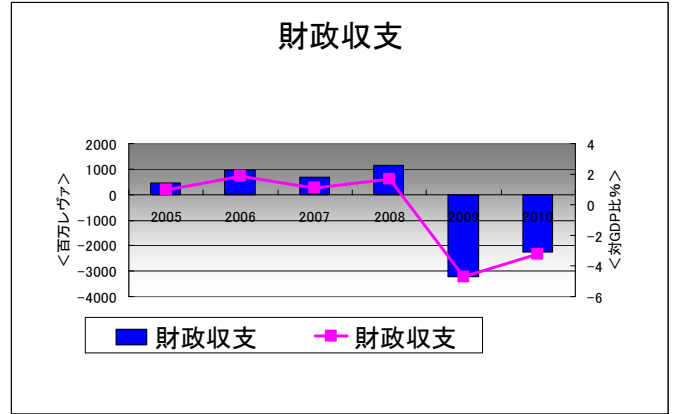
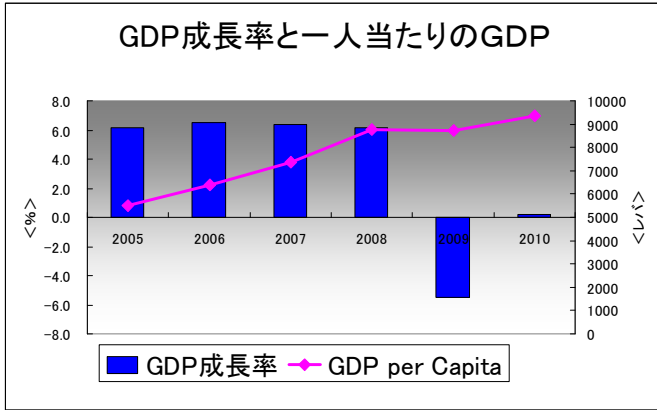
ブルガリア内政・外交の動き（9月）

在ブルガリア大使館

1（木）	●国民議会、大統領の拒否権発動後差し戻された外務公務員法改正法案を再可決。 ☆ボリスフ首相：「リビア・フレンズ会合出席（於：パリ）
2（金）	☆パルヴァノフ大統領：第9回南東欧地域UNESCOサミット出席 （於：セルビア東部のローマ遺跡「ビミナツィウム」）
3（土）	
4（日）	●与党（GERB）がプレブネリエフ地域開発・公共事業大臣を大統領候補、ポポヴァ法務大臣を副大統領候補とすると発表。
5（月）	
6（火）	
7（水）	●ボリスフ首相は、大統領候補となったプレブネリエフ大統領候補の後任としてパヴロヴァ地域開発・公共事業次官を指名。（ポポヴァ法務大臣は選挙キャンペーン期間のみ休職。） ☆ユンカー・ルクセンブルク首相：ブルガリア訪問 ☆徐才厚・中国共産党中央政治局委員・中央軍事委員会副主席：ブルガリア訪問 ☆シュミット・ハンガリー大統領：ブルガリア訪問（～9日） ☆ムラデノフ外相：トルコ訪問（～8日）
8（木）	
9（金）	
10（土）	
11（日）	☆ボリスフ首相：エストニア訪問（～12日）
12（月）	
13（火）	
14（水）	
15（木）	☆ムラデノフ外相：セルビア訪問
16（金）	
17（土）	
18（日）	
19（月）	
20（火）	☆ムラデノフ外相：第66回国連総会出席（於：ニューヨーク）（～26日）
21（水）	
22（木）	☆ボリスフ首相・ツヴェタノフ内相：EU内務司法理事会出席（於：ブリュッセル）
23（金）	●プロブディフ市近郊カトゥニツァ村において青年がロマ族のリーダーラシュコフ氏の関係者が運転する車に轢かれて死亡、ロマと村民との衝突が勃発。
24（土）	●村民によるラシュコフ氏住居への襲撃、抗議行動
25（日）	●プロブディフ近郊の暴動において127名が逮捕
26（月）	●反ロマ抗議デモの沈静化のためパルヴァノフ大統領、ボリスフ首相がプロブディフを訪問 ☆キム・ファンシク韓国国務総理：ブルガリア訪問（～28日） ☆ツァチェヴァ国民議会議長：ドイツ訪問（～27日）
27（火）	●アセノフグランド地方検察がラシュコフ氏を殺人脅迫の疑いで逮捕したと発表
28（水）	●パルヴァノフ大統領は、ロマ問題に関し国家安全保障協議会を10月1日に開催と発表。
29（木）	☆ボリスフ首相：東方パートナーシップ首脳会合出席（於：ワルシャワ）
30（金）	

ブルガリア経済指標 (2011年9月)

出所：統計局、中銀、ソフィア証券取引所



ブルガリア主要経済指標

<GDP成長率と一人当たりのGDP>

	2005	2006	2007	2008	2009	2010
GDP成長率 (%)	6.2	6.5	6.4	6.2	-5.5	0.2
GDP per Capita (BGN)	5529	6411	7379	8753	8735	9362

<財政収支>

	2005	2006	2007	2008	2009	2010
歳入 (million BGN)	464.5	960.5	682.9	1148.8	-3210.7	-2269.2
財政収支 (% of GDP)	1	1.9	1.1	1.7	-4.7	-3.2

<失業者数及び失業率>

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011Jun.	Jul.	Aug.
失業者数 (千人)	397	338	256	232	338	342	318	315	314
失業率 (%)	10.7	9.1	6.9	6.3	9.1	9.2	9.6	9.5	9.6

<インフレ率と平均月収>

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011Jun.	Jul.	Aug.
インフレ率 (%)	5	6.5	12.5	7.8	0.6	4.5	4.8	4.4	4.1
平均月収 (BGN)	324	360	431	545	591	647	690		

<対外債務>

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011 May	Jun.	Jul.
政府対外債務 (million EURO)	5197.6	4547.3	4092.3	3908.7	4172.5	4287.5	4213.0	4169.0	4165.9
民間対外債務 (million EURO)	10309.3	16143.6	24924.5	33203.7	33635.6	32392	32047.0	32155.3	32006.9

<貿易赤字と外国投資>

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011 May	Jun.	Jul.
外国投資 (million EURO)	3152	6222	9052	6728	2412	1639	83.2	99.6	183.8
貿易収支 (million EURO)	-4410	-5562	-7245	-8597	-4174	-2413	-432.8	-641.2	-590.5
輸出 (million EURO)	9,466	12,012	13,512	15,204	11,787	15,588	8,043	9,639	11,473
輸入 (million EURO)	13,876	17,574	20,757	23,801	15,889	18,000	8,475	10,280	12,064